

# 中国天津・北京訪問の報告書

2018年2月10日

小松コリア:共同代表理事 尹熙竣

## 1. はじめに

近年、北朝鮮による核兵器の開発と弾道ミサイルの発射。また、米中間のパワーゲームも加速され、アジア諸国の政治・軍事的緊張感も高まっており、我々の意向とは関係なく韓半島(朝鮮半島)と日本列島がその最前線に立とうとしている。

一方、北朝鮮への圧力が強まるなか、平昌オリンピックを契機に融和に向けて進む韓国と北朝鮮。オリンピックを政治の道具として利用し、北朝鮮に振り回されているとも言われているが、互いの思惑はどうであれ、会って話し合うステージを作ったことには評価したい。

この中、この度は日本ビジネスインテリジェンス協会の中川先生の誘いで、BISグループメンバー9名と、小松電機メンバー9名の一員として中国の天津と北京を訪問することになった。

自由貿易区の設立による「首都圏一体化開発」を加速している天津は、アジアで初めて近代化となった明治時代に多くの中国人が来日された地域とも言われている。

生命の本質、人間の特性から理論的に考察、現実を見据え、持続的に楽しく生きられる地球社会を目指している人間自然科学研究所の小松昭夫理事長が、昨年7月7日、「中国全民族抗戦勃発80周年記念&国際二戦博物館館長フォーラム」にて、当財団の磯江公博監事代読により「世界平和事業構想」を発表され、その具現化に向けた訪問でもある。

## 2. 日程

- 1月29日(月) 中国天津商委主任と面会、晩餐会
- 1月30日(火) 天津開発区 東疆見学、口腔病院・第三中心病院見学
- 1月31日(水) 西青区縁吉病院と商談、天津朴餌餐飲管理服務公司与商談
- 2月01日(木) 中国人民抗日記念館、北京崑崙海岸伝感技術有限公司訪問
- 2月02日(金) 張先生、出版社 王様と出版パーティー打合せ、帰国

## 3. メンバー

【小松電機グループメンバー(敬語省略)】

- ①小松昭夫 小松電機産業株式会社代表取締役、一般財団法人人間自然科学研究所 理事長
- ②松岡真功 株式会社BlueMeme 代表取締役
- ③佐野 馨 知財支援コンサルタント、島根県発明協会登録専門家、農水省6次産業化プランナー
- ④磯江公博 株式会社エナテクス 常務取締役、一般財団法人人間自然科学研究所 監事

- ⑤永島邦子 株式会社農協観光 島根支店 主査
- ⑥細木由里子 オフィス由 小松電機産業沖縄プロジェクト:プランニングアシスタント
- ⑦魏(高)亜玲 WEI(GO) 小松電機産業株式会社 営業部、一般財団法人人間自然科学研究所 理事
- ⑧李 晓明 大連天億機電設備控制有限公司 代表取締役
- ⑨尹 熙竣 コマツ코리아株式会社 共同代表理事

【BISグループメンバー(敬語省略)】

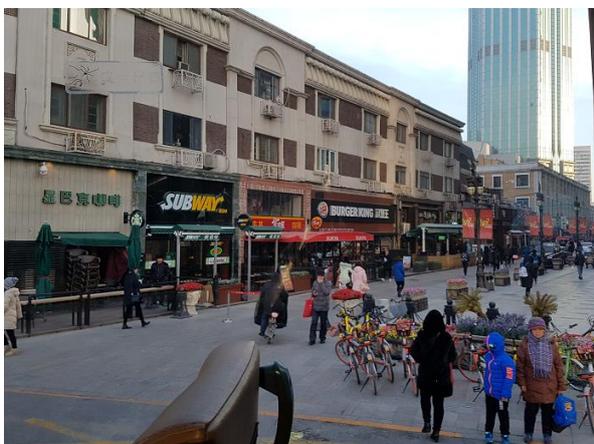
- ①中村信也 東京家政大学教授、医学博士、整形外科医、法学士= 整形外科、栄養学、薬膳、小説家= 訪問団顧問
- ②海野貴史 エコパラダイス社長、環境、医療関係専門家(温熱療法、室内清浄システム発明家、環境農業開発、水浄装置など = 訪問団顧問
- ③中川十郎 日本ビジネスインテリジェンス協会理事長、名古屋市立大学 22世紀研究所特任教授、元米国ニチメン・ニューヨーク開発担当副社長、グローバルマーケット開拓専門家=団長
- ④伊藤 正 イトウソリューション&コンサルタント社長、元岩谷産業北京、大連事務所長=マーケティング専門家=副団長・事務局長、BIS(日本ビジネスインテリジェンス協会)理事・事務局長)
- ⑤小野共幸 エコパラダイス海外事業部長=訪問団事務局次長
- ⑥霜島清子 茶道教授、不動産会社元社長=BIS 文化担当理事
- ⑦小林洋子 東京家政大学・中村信也教授秘書長、気功専門家
- ⑧安井貴史 Worl A-Investment 社長=海外投資
- ⑨劉 峰 現代経済研究所所長、京進・中国総代表=BIS 国際理事=現地参加=訪問団現地アドバイザー

#### 4. 中国天津市訪問



<空から見た北京～天津間の街並み>

鋁工業の拠点が北京から遠く離れた地域にシフトしたことや石炭使用や鋁工業の生産活動への厳格な規制に加え、北京市と周辺地域では昨年に大気の質が大幅に改善されていた。飛行機からも鮮明に町の様子が綺麗に見えた。



<天津市内の高層ビルと町風景>

近代新都市の高層ビルと昔ならではの建物がうまく混ざっている町であった。中でもモバイルレンタル

自電車が多く見かけられたことと、思ったより多くの中国製車があることに驚いた。



<町のトイレ、病院の玄関、間仕切りなどに使われている防寒用の「布のれん」>

シートシャッターはともかく、スライドドアや自動ドアの需要が大きいと思った。現地のスタッフに聞くと、中国はとにかく人が多い、大勢の人が使われるため、頻繁な故障や管理ができないと思うので手動の布のれんがいいと言われた。

### 1) 中国天津商委主任と面会、TEDA(天津経済技術開発区)



天津市はすでに、首都である北京市や、北京市や天津市を取り囲む河北省と一体化する開発が進められることになっている。自由貿易区の設立は「首都圏一体化開発」を加速することになるとみられている。

84年開発され33年たった地区である。中国内に100か所以上の開発区があり、天津内には10か所の団地がある。中区はケミカル産業、日系企業DMG森精機も事業展開している西区は先端技術産業が進んでいる。

交通やインフラが良いこともあり日系企業は445社進出している。TEDAでは外資系の投資の促進、投資準備、工場設立、運営にもサポートしている。大手企業は建物を買って始まるが、中小企業企業はそうにはならない。そのため、中小企業向けの100~200坪レンタル工場や小口工場も準備できている。一般労働者の賃金は3000元(約5万円)。

自由貿易区には外資系の病院も入ることができる。金融やリースの面で果たす機能も、重視される。外資に対しては上海の自由貿易試験区と同様に禁止または規制する営業分野のみを定め、それ以外の活動は自由とするネガティブ・リスト方式を採用する。

## 2) 天津開発区東疆見学



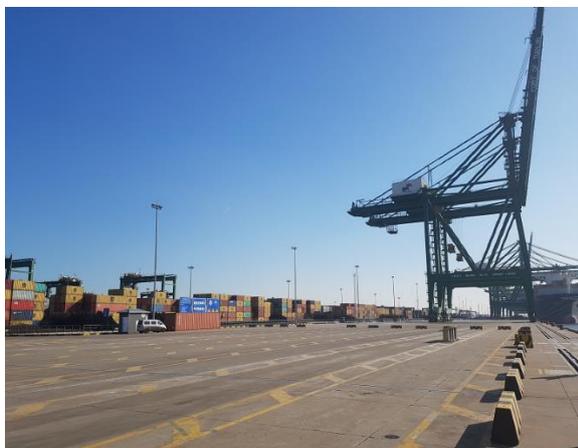
中国8つの保税港区の中、北方最大であり、毎年、25,000の船が出入りしている。

改革開放政策後40年がたったが、中央政府でもこの地区を重要視しておりシンガポール港と類似したコンセプトで進めている。天津市は東疆港区を中心に、自由貿易区の建設を進める。

現在、先進製造業を誘致している。自動車、冷凍食品、ワインの輸出・輸入が可能で、この開発区で加工し第3国に販売すると税金が免除される。ただし、中国国内に販売すると税金がかかる。

中国内には2億2千万人の高齢者がいる。高齢化社会へのスピードも世界1位である。これから高齢化社会が問題化され、習近平国家主席も健康な中国作りに力を入れている。

日本の介護施設システム(技術・設備)には人間味が入っているため中国内に評価がよい。まず、地区の展示場に無料で商品を展示し、国内のパートナー探しや事業展開を準備すればよい。



### 3) 天津南開区



天津市内で一番大きい区であり、科学・技術の団地である。165万人が住んでおり、3次産業が発達した教育・美しい町とも言われる。

温家宝、周恩来が卒業された南開中学・高校もこの地区にある。南開区は科学技術の促進、人材育成のキーワードを掲げ、スマート企業、高品質産業の誘致を進めている。区内に68,000社が登録されており、その中、4,000社が科学技術会社である。区内に58か所の研究所があるため、日系企業と共同開発を希望している。入居地区によっては税金の優遇対策も取っている。

### 4) 天津河北区



天津市東北部に位置し、海河北岸に位置したことより河北区と命名された。

河北区は政治・文化の中心区である。2014年には天津デザイン祭も開催され、多くの国から訪れた。

石炭、石油、鉱山資源、水資源、観光資源などを保有しており、化学工業、機械製造、紡織などの産業が発達した伝統的な工業都市でもある。

日系のゴム工場を改造し、文化コーヒーショップ、インテリア展示場、会議室として使われている空間価値創造には感心した。デザインを重視し、文化エリアとして黒澤先生の作品を展示されていた。

## 5. 中国北京市訪問

### ① 中国人民抗日戦争記念館



昨年7月、「中国全民族抗戦勃発80周年記念&国際二戦博物館館長フォーラム」にて、当財団の磯江公博監事代読により「世界平和と事業構想」を発表され、その主催者である中国人民抗日戦争記念館の李宗遠館長とその具現化に向けて話し合う訪問であった。

李館長からは、「小松理事長の健康が良くなりうれしい。理事長の理念・思想、中日両国の友好事業に敬意と尊敬をする。北京を訪れるたびに交流ができればいい」、平和と事業構想に関しては、積極的に協力したいと言われたことを魏さんから聞いた。

### ② 和の研究会メンバーとの打ち合わせ



張可喜先生が書かれている「小松昭夫経営の道」「経営実践手帳」を出版する予定の人民東方出版媒体の王麗郷様、吳常春様と6月に計画している出版記念式典について協議を行った。

「中小企業でありながら、平和・環境・健康とつながるきちんとした経営理念を掲げ、地元(田舎)の社会インフラを生かし、社会問題を資源と捉え、ブランドとマーケットを作ってきた」、小松社長の経営術とその実績(平和活動含め)が、今の中国政府が進めている中小企業育成政策にふさわしいと認識され、出版に至ったと認識できた。

イベントは政府の記念行事が多い7月—10月までの期間を控え、6月初旬又は中旬の金・土日に進めることを提案された。金曜日は出版パーティと本を基にした座談会、土曜日は都内の書店で、スピーチとサイン会の開催を考えている。また、政府主催の読書キャンペーンにも小松社長の本を推薦する予定であることが分かった。

## 6. 終わりに

この度は、5日間の貴重な経験のチャンスをくださった小松社長をはじめ、日程の準備と段取りしていただきましたBISの中川十郎会長とグループメンバーに感謝を申し上げます。

情報、物流、金融革命が進んでいる中、普段は会えない方々を通じて世界の中心になっている中国の変化と現状を知ることができました。

今回、訪れた天津は私が住んでいる仁川市が初めて中国内の都市と姉妹関係を結んだところで、医療、博物館、金融関連で連携をしていることをしばしば聞いていたため親しみを感じていました。

鉱工業と石油化学団地が多くあった北京と天津地域の空と空気がこれほど綺麗になったことに驚き、その理由が、中央政府から強制的に北京から遠く離れた10か所の地域に工場をシフトしたことにもう一度驚きました。メディアで一時期に焼肉も禁止されることを聞き半信半疑でしたが、一般家庭で石炭使用も禁止されたことを聞き、中国は思えば一瞬でやる国であることが実感できました。

天津市の公務員たちの活発さにも感心しました。各区に所属している関係者が世界に向けより良い町づくりのためお互いに対立・競争しながら、アイデアを出し合い、積極的に企業誘致や産業の格上げを進めていることを目のあたりにしました。共産党の傘下にいるため、思考と行動が固いと思っていたが、場面によっては資本主義社会の韓国よりも柔軟で自由なコミュニケーションが取れることに感心しました。

李曉明社長とは門番ビジネスの中国展開について話し合うチャンスがありました。15年前に中国へ展開するチャンスがあったが理由はどうであれ展開できなかった。しかし、今がもっといいタイミングかも知れないと言われました。しかし、中国内ではすでにインターネット販売で10万円前後のシートシャッターが出回っており、製品コンセプトとマーケティング戦略、そして、販売領域の選定がもっとも重要になってきたことに共感しました。小松社長の出版記念式典の前に、まず、販売体制の構築と展示会出展を進めると言われました。

最後に、小松社長が長年間平和の事業化に向け進めてきた段取りと実績がいよいよ花咲き、世界平和と事業構想—沖繩プロジェクトとして現実化しようとしています。自分の立場と役割に充実しながら活動を続けたいと思います。

以上